

【生活科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 児童が生き物や植物を飼育して世話をしたり、身の回りの物を使って遊んだり工夫したりすることで、多くのことに気付くとともに、知識や経験が豊かになった。また、主体的に学習に取り組む児童も多くなった。
- タブレットPCを活用し、生き物や植物が成長する様子や遊ぶ活動を記録することで、より成長の様子に気付いたり、活動を振り返ったりすることが身に付いた。
- △昨年度から、できる範囲で異学年や地域の方との交流の機会をもつようにしてきた。今年度は、活動の枠を広げながら他者の考えと比べて自分の考えを広めたり、深めたりする学習の機会をもてるようにしていく。地域の一員としての自覚をもたせることも必要である。

2 学習状況の分析と課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化や自然の不思議さ、自然の中で遊ぶ楽しさに気付き、自然物や必要な道具を使って遊んだり、物を作ったりすることができた。 ・タブレットを活用して、生き物や植物の成長の様子を写真で記録することができた。見付ける、比べる、例えることができ、理科での観察などに関する基本的な技能を身に付けることができた。 ・生き物や植物との関わりを通して、生命をもっていることや成長していること、また、上手に世話ができるようになった自分自身の成長に気付くことができた。 ・上級生として自分の役割が増えたことに気付き、1年生に対して優しく接することができた自分や友達の良さ、成長に気付くことができた。(2年生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化について考えたり、自然物を使って遊びを考えたりすることができた。 ・植物の色、大きさ、形などに着目し、気付いたことを絵に描き表したり、身の回りのものと比べて、「○○のように」「○○のいくつ分」など例えたりしながら変化を自分なりに観察カードに記録することができた。 ・生き物や植物の変化や成長を伝え合う時間を多く設定したことで、友達に伝えたいという思いを実現したり、考えを聞き合って新しいことに気付いたりすることができた。 ・相手が喜んでくれることや助けになることなど、具体的に考えられるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物や自然に親しみをもって活動したり、学校の中の人や地域に愛着をもって関わったりすることができた。 ・自分の育てている生き物や植物の成長を楽しみにしながら、大切に世話をすることができた。 ・もっと知りたい、もっとやってみたいという気持ちをもって活動することができた。 ・遊びを工夫する学習や生き物や植物を育てる体験活動を多く設定したことで、児童が多くのことに進んで関わるすることができた。
課題	生き物や植物に興味をもつ児童が多く、知識は豊富にある。一方で体験を通して、自分で課題を見付けたり、解決したりする意欲が不十分な児童も見られる。友達の話聞いて考えを広めたり、深めたりするために、異学年や地域の方との交流の場を多く設定し、相手意識をもって学習に取り組ませたい。		

3 授業の具体的な改善策

教科目標	学習指導要領の教科の目標 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会および自然の特徴やよさ、それらの関わり方等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。
全体	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ・学習に対して積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返らせることで、次の学びに向けて主体的に取り組む態度を育む。 ・ペアの友達→グループ→学級全体のように段階を踏んだ伝え合いの経験を積ませることで、友達の発表や考えに触れることに繋げ、思考を広げたり深めたりできるようにする。 ・一人一人が感じたり考えたりしながら、対象に対する特徴や良さなどの気付きを感じられるような学習活動を設定する。
学年段階別改善策	
第一学年	【身近な環境や自分についての気付きの習得】 ・遊びを発展させる中で、材料や遊び方を工夫する計画を自ら考える時間を設けることで、気付きの質を高め、遊びを創り出すことができるようにする。また、コーナーを分けたり、グルーピングを変えたりするなどの環境を工夫する。 【生活への関心・意欲を高める】 ・一人一人が、興味をもって体験したり、活動したりできるように、教材の充実や時間の確保を行う。 【豊かな生活になるよう考え、表現する】 ・自分が気付いたこと、考えたこと、不思議に思ったことなどを友達に伝えたり、友達の発言に共感したりできるようにする。そのために、うなずきや簡単な言葉を使うよう示していき、できている児童を見付けながら、全体で共有していく。話し合いが進まないグループには、教師が助言したり、言葉を補足したりしていく。
第二学年	【身近な環境や自分についての気付きの習得】 ・素材に十分触れさせた上で、身の回りの自然を利用したり、身近にある物の特徴を活かしながら使ったりして、遊びや遊びに使うものを工夫して作るができるようにする。 【生活への関心・意欲を高める】 ・自分たちで育てた野菜を観察、収穫する活動を行う際に、何を育てたいか、どのような物が必要なのかなども児童に話し合わせるなど、各活動において児童が願いをもって取り組めるようにする。 【豊かな生活になるよう考え、表現する】 ・他学年や、地域の人々との交流を通して、児童が、身近な人々と関わる良さや楽しさを知り、すすんで触れ合い、交流しようとする場を設けるようにする。 ・伝え合う活動では、自分の思いを伝えるだけでなく、友達が話したことに対する自分の考えや気持ちを伝えるなど、相手意識をもって活動できるようにする。そのために、話し合い活動の中で見られた良い表現を取り上げ、全体で共有したり、掲示したりするなど、児童が取り入れやすい環境にしていく。話し合いが進まないグループには、教師が助言や言葉かけをしたり、時間を十分に確保したりして、丁寧に取り組めるようにする。

